自己を見つめ、道徳的価値に対する理解を深める生徒の育成
～問題意識をもたせる導入の工夫と「振り返りシート」の活用を通して～

Ⅰ　主題設定の理由

中学校学習指導要領において、道徳科の目標は「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自己の人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践的意欲と態度を育てる」と示されている。この目標の実現のために、今回の改定では、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う考え・議論する道徳への転換が必要となる。

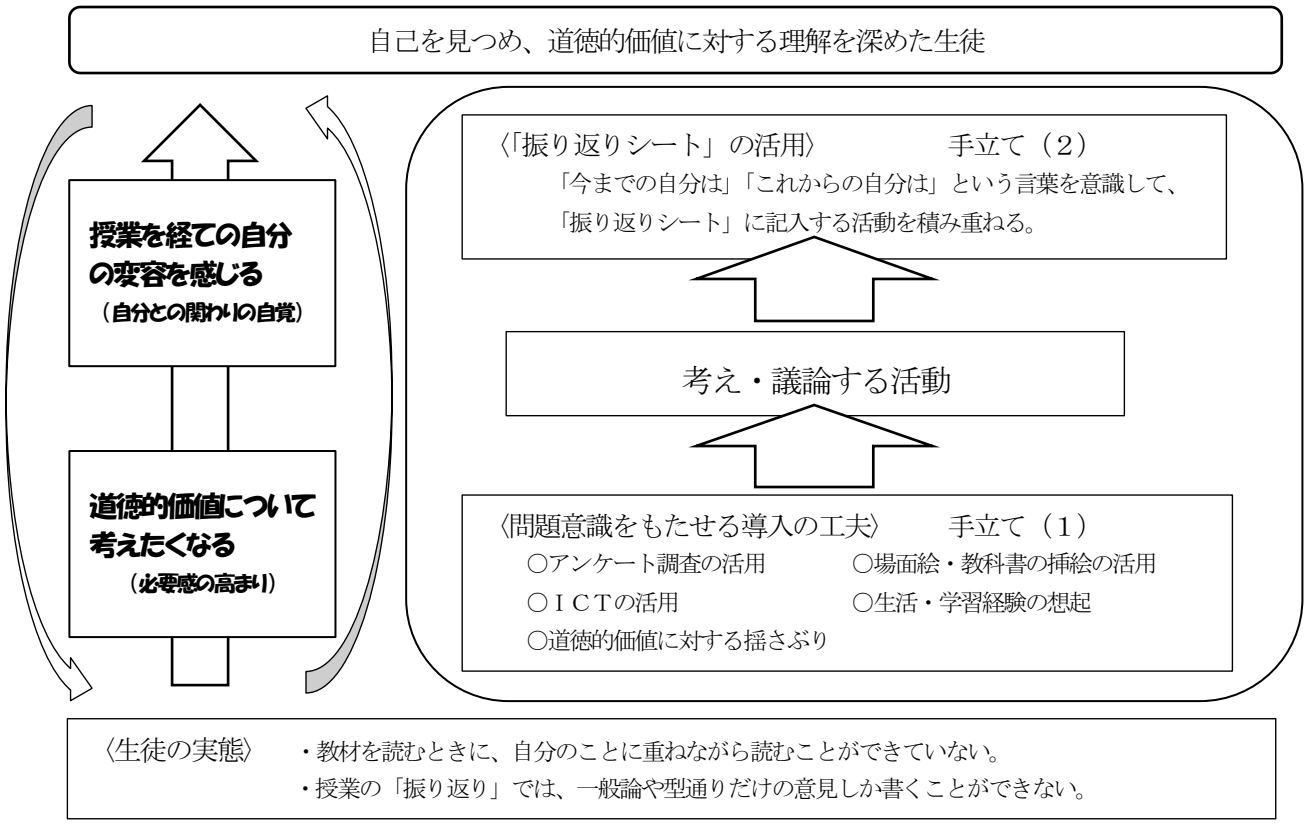
３校の生徒に道徳の授業への取組に関するアンケートを実施したところ、「資料を読むときに、自分のことに重ねながら読んでいる。」の評価が他の項目よりも低かった。また、授業の振り返りでは、道徳的価値に対して一般論や型通りだけの意見を記述する生徒が多く見られた。このことから、生徒は、道徳的価値のよさには気付けているが、自分との関わりで考えたり理解を深めようとしたりすることに課題があることが分かった。

この課題の解決に向けて、授業でねらいとする道徳的価値を、授業の導入の段階でいかに自分のこととして捉えさせるかが重要である。これにより、その後の展開における教材の必要感が高まるとともに、考え・議論する活動への主体的な取組につながるものと考えた。また、終末において、授業を通しての自らの変容について確認し、道徳的価値と自分との関わりについて考える振り返りをすることが有効であると考えた。

以上のことから、問題意識をもたせる導入の工夫と「振り返りシート」の活用を通して、自己を見つめ、道徳的価値に対する理解を深める生徒の育成をすることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究の内容

1　研究構想図



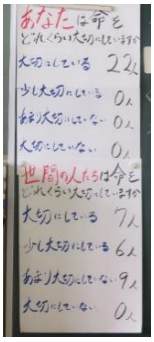
２　授業改善に向けた手立て

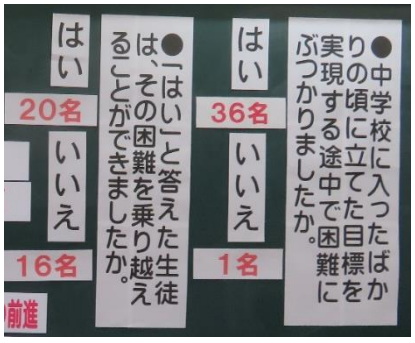
（１）問題意識をもたせる導入の工夫

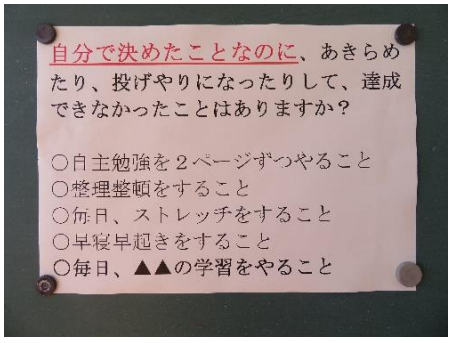
生徒の実態や扱う教材等に応じて、ねらいとする道徳的価値に対する関心を高め、問題意識をもたせられるように、次のような導入を行う。

①アンケート調査の活用

グラフや表で結果を提示することで、ねらいとする道徳的価値に対する生徒の実態を確認し合い、生徒が自他の意見や考え方の違いを客観的に捉えられるようにする。





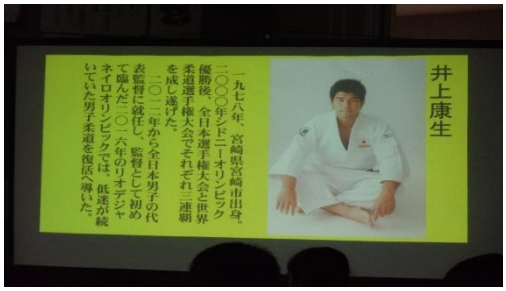


②場面絵・教科書の挿絵の活用

道徳的な問題が起きている場面を具体的に考えさせるときに言葉での説明に加えて提示することで、内容の理解を助けるとともに、ねらいとする道徳的価値について考えることへの意欲が高められるようにする。

③ＩＣＴの活用

教材に関する動画や写真を紹介したり、プレゼンテーションソフトで内容について確認したりすることで、教材への生徒の興味・関心を高め、道徳的な問題に着目できるようにする。



④生活・学習経験の想起

教材に関連する生徒の経験（例：「体育祭」「合唱コンクール」「職場体験」「地域の行事」など）を、写真や作文の提示、発問等で想起させることで、生徒が教材を身近に感じられるようにするとともに、道徳的な問題を自分のこととして捉えられるようにする。

⑤道徳的価値に対する揺さぶり

「思いやりは大切だと感じているのに、思いやりのある行動ができないことがあるのはなぜですか？」「人に迷惑がかからなくても、きまりを守るのはなぜですか？」など、生徒のもっている価値観に対する心の揺れを生じさせる発問をし、ねらいとする道徳的価値について考える必要感を高められるようにする。

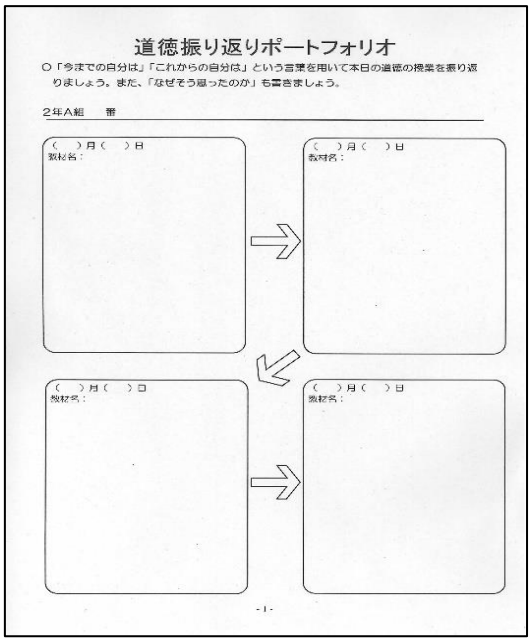
（２）「振り返りシート」の活用

本時の学習で自分の考え方にどのような変化が起きたのかを振り返ることができるように、右図のような「振り返りシート」を使用する。生徒が記述するときには、「今までの自分は」「これからの自分は」というキーワードを意識させて振り返りを書かせる。これにより以下の効果をねらう。

①キーワードを意識させることで、自分自身を見つめやすくなる。

②過去に生徒自身が書いた振り返りの記述が確認できることで、自己の変容を感じたり再確認したりすることにつながる。

③繰り返し取り組むことで、道徳科の授業で自分自身を見つめることが習慣となる。

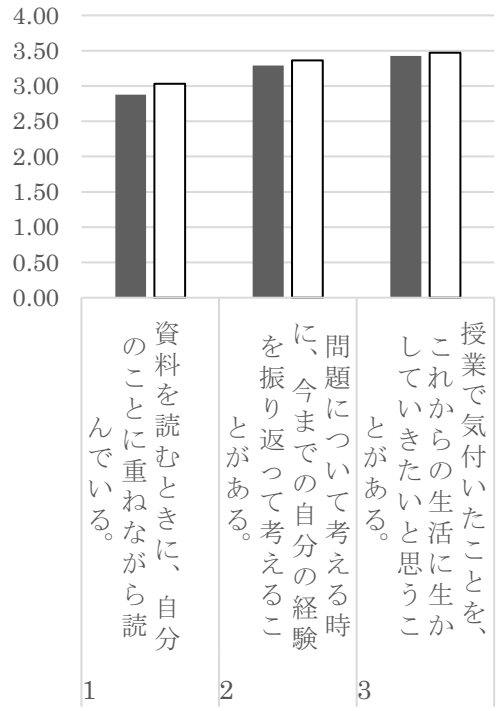


Ⅲ　まとめ

１　成果

・道徳アンケート調査結果において、「１資料を読むときに、自分のことに重ねながら読んでいる。」及び「２問題について考えるときに、今までの自分の経験を振り返って考えることがある。」の項目について数値が上昇した。このことから、問題意識をもたせる導入の工夫を行ったことは、その後の活動において、自分との関わりで考えようとする意識を高めることに効果的であったと考える。

・「振り返りシート」に、「今までの自分」「これからの自分」を意識させながら書かせたことで、授業で考えた道徳的価値について、これまでの自分の生活体験やその時の考え方・感じ方と照らし合わせながら、自分のこととして捉えて記述する生徒が増えた。道徳アンケート調査結果において、「３授業で気付いたことを、これからの生活に生かしていきたいと思うことがある。」の項目についての数値が上昇したことからも、実践を通して道徳的価値の理解を自分との関わりで深めることにつながったと考える。



道徳アンケート調査結果
第１回７月実施（黒）・第２回１１月実施（白）

２　課題

・導入で高まった生徒の問題意識や考える必要感を、いかに考え・議論する活動に効果的に生かし、生徒の自主的で活発な意見交流を生み出していくかについて、授業展開や発問等を工夫していく必要がある。

・今回の「振り返りシート」は授業毎の振り返りを積み重ねていく形式であり、価値項目のつながりについては考慮できていない。同じ道徳的価値を扱った授業における自身の振り返りを比較でき、自身の変容をより感じられるような工夫についても考える必要がある。

実践例１（飯野教諭：沼田市立白沢中学校　第２学年）

１　ねらい

目標や希望をもって生活することの大切さや意義を理解し、その達成をめざし、困難を乗り越えようとする態度を育てる。

２　資料名：「初心」　　内容項目：Ａ－（４）希望と勇気、克己と強い意志

３　生徒の実態

本学級は、男子１７名、女子２１名、計３８名である。学期ごとに立てる生活面・学習面・運動面の目標に対して意欲的に取り組んでいる生徒は多いが、目標に対してなかなか前向きに取り組むことができない生徒も目につく。

学期ごとに、生活面、学習面、運動面について自己の課題を考え目標を書いているが、その目標を実現するために日々意識して生活している生徒は限られている。ともすると、困難を乗り越え自分の課題を追求することよりも、まわりに流されてしまう傾向がある生徒も複数見られる。

事前学習として、中学校に入学したばかりの頃に書いた中学の目標の作文を読ませた後に、アンケート調査（１０月１７日　男子１７名、女子２０名、計３７名で実施）を行ったところ、結果は以下のようになった。

（１）あなたは、どんな目標をもっていましたか。
〇勉強を頑張る。〇授業に集中する。〇部活動を頑張る。〇あいさつや返事をしっかりする。
〇時間を守る。〇あきらめずに頑張る。〇目上の人に対して礼儀正しく接する。

（２）目標を実現する途中で困難にぶつかりましたか。
はい（３６名）・いいえ（１名）

（３）（２）の質問に「はい」と答えた生徒は、その困難を乗り越えることができましたか。
はい（２０名）・いいえ（１６名）

４　教材について

本教材は、柔道の指導者である主人公・井上康生さんの柔道に対する取組や困難を乗り越えた体験などをまとめたものである。父親の影響で柔道を始めた康生さんは、瞬く間にその名が知られるようになった。世界一も確実とされていたがある大会での初戦敗退を機に、大きな挫折を味わう。しかし、母親の愛情や粘り強い練習によって苦しみを乗り越え、目標を達成した。苦しみを乗り越えて挑戦し続けることの素晴らしさに気付かせることができる教材である。

５　問題意識をもたせる導入の工夫

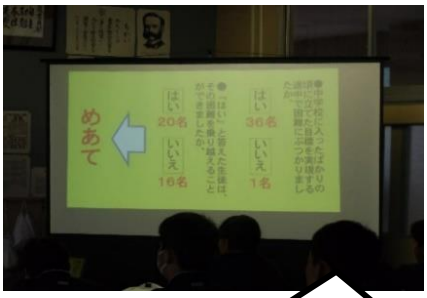
（１）事前に中学に入学したばかりの頃に書いた目標の作文を読ませ、初心を思い起こさせておく。
＜生活・学習経験の想起＞

（２）目標を達成する途中で困難にぶつかり乗り越えた経験があるかどうかを問うことで、本時のめあてについて問題意識をもたせ、主体的に考えていくという方向付けをする。
＜アンケート調査の活用＞＜ＩＣＴの活用＞

（３）作文をもとにしたアンケート調査の結果を、ＩＣＴを活用してスクリーンに映すだけではなく、その後黒板に掲示することで、終始問題意識を基にめあてに迫れるようにする。
＜アンケート調査の活用＞＜ＩＣＴの活用＞

6　本時の展開

（1）展開

過程 (時間)	学習活動 ○主な発問	指導上の留意点及び支援 ○予想される生徒の反応　●実際の反応
導 入 (7)	1　本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 ・アンケート結果を共有する。  	・中学校に入学した頃に書いた目標の作文を事前に読ませ初心を思い起こさせておき、それを振り返らせることにより、自己理解を促し、道徳的価値を主体的に考えさせる。 工夫（1）＜生活・学習経験の想起＞ 「入学したばかりの頃の目標を忘れていた」「目標をまだ達成できていない」「目標を達成することができた」など、自分の初心を振り返る発言が見られた。 ・プロジェクターにアンケート結果を映す。 工夫（2）＜アンケート調査の活用＞　工夫（3）＜ＩＣＴの活用＞ ・「みんなも自分と同じように困難にぶつかっているんだな」「半分近くの人が困難を乗り越えることができたんだな。どうやって乗り越えたんだろう」など、自分の立ち位置や友達の考え、困難について着目する発言が見られた。 ・全員の生徒がスクリーンに注目し、頷いたり自主的に発言したりする生徒が見られた。
	○目標を実現する途中で困難にぶつかったことはありますか。 ○その困難を乗り越えることができましたか。	●乗り越えることができなかった。 ●乗り越えることができた。
	【めあて】困難を乗り越えるために大切なことは何かを考えよう。	
	2　井上康生について知る。	・プレゼンテーションソフトを用いて紹介する。
展 開 (33)	3　教材「初心」前半を読む。 **（「…輝きを取り戻すことができなかった。」まで）**	・プロジェクターで前半部を映し出し範読することで、意識を内容に集中させる。 ・困難にぶつかり、厳しい練習を繰り返しながらも勝つことができない苦しみと葛藤について考えさせる。
	○大会で畳にたたきつけられたとき、康生さんはどのような気持ちだっただろう。 ・全体で考えを交流し合う。	○今までやってきた練習は何だったのだろう。 ○どうすれば以前のように勝てるようになるのだろう。 ●世界一になれないかな。
	〈中心発問〉 ○困難を乗り越えるためにはどんなことが必要なのだろう。 ①個人で考えをまとめる。 ②班で意見を交換し、なぜそう	・康生さんの経験に共感し、自分が困難を乗り越えるには何が必要だろうか考えさせることで、本時のめあてに迫る。 ●あきらめずに頑張る。 ●強い気持ちをもつ。 ●初心を大切にする。

	考えたのかを議論し合う。 ③全体で考えを共有する。 〈補助発問〉 ○困難を乗り越えた経験のある生徒は、どんな困難にぶつかってどう乗り越えたのかを書いて、困難を乗り越えられていない生徒は、乗り越えるためには何が必要なのかを書いて、この後の班別活動でお互いの考えに対して、なぜそう考えたのかを議論し合いましょう。 4　教材「初心」後半を読む。 **（「そんな折り、一九九九年六月…」）から** ○表彰台に上がって母の遺影を取り出したとき、康生さんはどんなことを考えていたのだろう。 ①個人で考えをまとめる。 ②全体で考えを交流し合う。	 導入でＩＣＴを活用して紹介したアンケート調査の結果やめあてを黒板にも掲示しておき、適宜確認の声かけをした。活動中に黒板の方を見て確認している生徒も見られた。 ・プロジェクターで後半部を映し出して範読することで、意識を内容に集中させる。 ・困難に立ち向かい、それを乗り越えることができたときの喜びや達成感を想起させる。 ・本時のめあてについて、生徒に多角的・多面的に考えさせる。 ○これからも目標に向かって頑張ることを心に誓った。 ○やり遂げた気持ちで胸がいっぱいだった。 ●表彰台の上からの景色を母に見せてあげて、感謝の気持ちを伝えたいと思った。
終末 (10)	5　本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。 【「振り返りシート」の活用】 「今までの自分は」「これからの自分は」という言葉を意識して本日の道徳の授業を振り返りましょう。	 ・本時の学習を振り返り、よりよい自己の考え方や生き方への思いや願いを深めさせる。 ・数名の生徒に意見を発表させ、クラスで考えを共有する。

（２）授業を終えて

①問題意識をもたせる導入の工夫について

・入学時に自分が書いた目標の作文を読ませることで、生徒に考えてもらいたい身近な問題に対して、主体的に考える場面を設定することができたと思う。

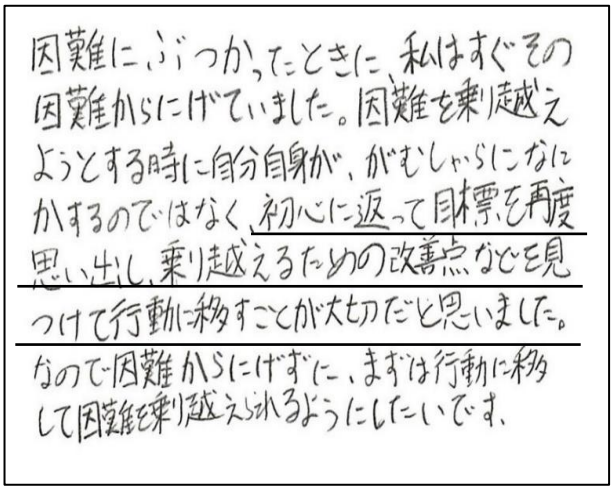
・自分と他者の意見や考え方の違いを認識することができたと思う。

・本時に生徒にもたせたい問題意識に対して興味・関心を高めることができたと思う。

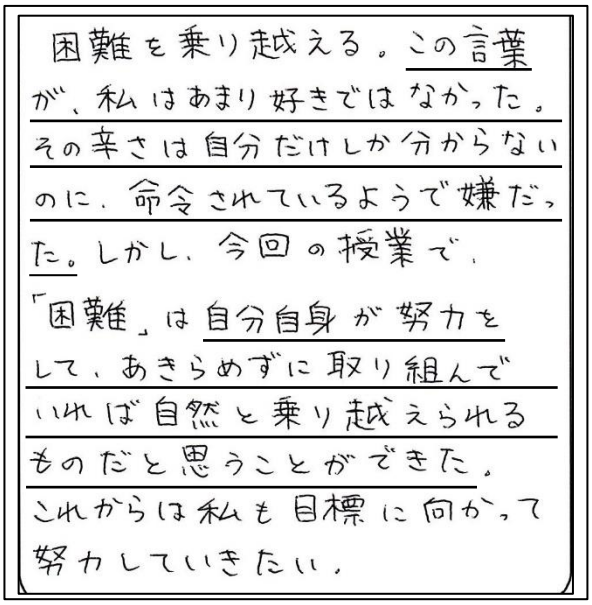
②「振り返りシート」の活用について

「今までの自分は」「これからの自分は」というキーワードを意識させて書かせたり、「なぜそう思ったのか」という理由を書かせたりしたことで、授業で考えた道徳的価値について自分のこととして捉えて振り返りをしたことが分かる、次のような生徒の記述が見られた。

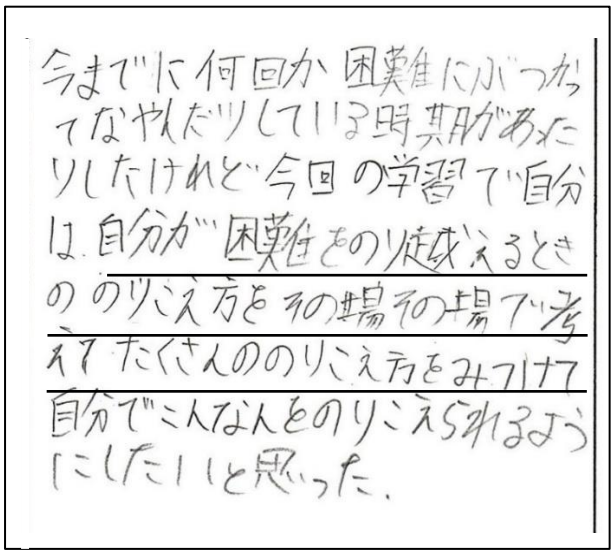
・生徒 A


困難にぶつかったときに私はすぐその困難からにげていました。困難を乗り越えようとする時に自分自身が、がむしゃらになにかするのではなく、初心に返って目標を再度思い出し、乗り越えるための改善点などを見つけて行動に移すことが大切だと思いました。なので困難からにげずに、まずは行動に移して困難を乗り越えられるようにしたいです。

・生徒 B


困難を乗り越える。この言葉が、私はあまり好きではなかった。その辛さは自分だけしか分からないのに、命令されているようで嫌だった。しかし、今回の授業で、「困難」は自分自身が努力をして、あきらめずに取り組んでいれば自然と乗り越えられるものだと思うことができた。これからは私も目標に向かって努力していきたい。

・生徒 C


今までに何回か困難にぶつかってなやんだりしている時期があったりしたけれど今回の学習で自分は自分が困難をのり越えるときののりこえ方をその場その場で考えてたくさんののりこえ方をみつけて自分でこんなんをのりこえられるようにしたいと思った。

ほとんどの生徒の「振り返りシート」には、通り一遍の言葉ではなく、今までの自分はねらいに対してどのような心情であったか、そしてよりよく生きるためにはこれからどのようにしたいかという観点から、本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを自分の言葉を使った具体的な記述が見られた。

具体的な記述からは生徒の学習が深まっているか、多面的・多角的に考えているかを読み取ることができ、生徒の実態をつかんで生徒の生活にフィードバックすることができると感じた。

③その他　本時の授業についての課題について

考え・議論する場面が、個々の意見を交換し合うだけにとどまっている感があるので、導入で高まった問題意識を、相手の考えや意見に対して「なぜ」「どうして」と疑問を投げ掛け活発な議論へとつなげていく工夫ができたらよいと思った。

7　実践と成果と課題

（1）成果

・導入の段階で、ねらいと関わる生徒の道徳的な体験（日常生活における経験や体験学習活動など）を取り上げ、そこに内在する道徳的問題を明らかにし、その問題を自分のこととして意識させることができた。
・「振り返りシート」において、本時の学習をどのように振り返ったらよいのかについて手立てを明示することで、生徒たちは自分の考えや意見を自分の言葉で練り上げて記述することができた。
・「振り返りシート」を活用することで、毎時生徒が自己の学習履歴を振り返り次の授業に臨むことができた。また、この形式は、授業者にとっても生徒の学習の深まりを捉えやすく、授業改善に生かすことができた。

価値項目：Ａ－（４）希望と勇気、克己と強い意志

《実践前》

教材名：「自分」を諦めない。立ち上がった瞬間が自信になる。

・失敗しても諦めずに挑戦していく。

・失敗しても何度もあきらめずにいろいろなことにちょうせんする

・失敗もたくさん経験してもあきらめない強い心を育てられるようにチャレンジする

・言い訳をして逃げずに何度も越えられるようにトライする

《実践後》

教材名：初心

私は1年生のはじめの時と比べて、勉強のやり方も雑になっていて自分への課題だなと思った。できない事に対しての課題や欠点を見つけて対処するために努力をすることが大切だと思いました。

困難を乗り越えるためには、たくさんの努力をしたり、一度、初心にもどって考え直したりすることが大切だと分かった。今までの自分は失敗してしまったとき、できなくなってしまったときにあせってあきらめかけてしまうこともあったけど、これからは一度、今までのことを考え直し、失敗してしまったことを生かして頑張っていきたいと思った。

一問一答的なステレオタイプの記述から、自分の言葉を使ってより具体的に自己を振り返る記述に変わったことが分かる。また、そこから自分の納得解を見出していることがわかる。

（２）課題

個々の内容項目ごとの記述で生徒の変容や深まりを把握するのは困難だったので、最終的な大くくりのまとまりを踏まえた評価を充実させるために、終末の振り返りでは、同じ内容項目で行った授業での記述を基に生徒の変容を捉える工夫が必要であると思った。

実践例２（林教諭：沼田市立池田中学校　第２学年）

１　ねらい

少女が再び声も出なかった時に考えていたことを話し合う中で、人に温かい心を届けるよさを感じ取り、知り合いではない人（友達ではない人）に対しても思いやりの心を発揮しようとする心情を養う。

２　資料名：「夜のくだもの屋」　内容項目：Ｂ－（６）思いやり、感謝

３　生徒の実態

本学級は、男子４名、女子６名、計１０名である。授業には意欲的に取組、挙手発言を積極的にする生徒も多い。また、男女の仲がよく、日常の学校生活や運動会などの行事を通して、周囲への思いやりやそれに対する感謝の心が生まれてきている。事前アンケートを行った結果は以下のようになった。

（１）思いやりのある行動をすることは大切だと思いますか。
　はい（９人）・いいえ（０人）
（２）今までどんな思いやりのある行動をしたことがありますか。
　○ケガをした友達を保健室に連れて行った。　○友達が重い物を運ぶときに手伝った。
　○親が風邪をひいたときに料理を手伝った。　○忘れ物を貸したことがある。
　○１年の旅行の時、電車でおばさんに席を譲った。○給食の片付けのときに手伝った。
（３）思いやりのある行動ができなかったことはありますか。
　ある（９人）・ない（０人）
（４）（３）で「ある」と答えた人は、なぜできなかったと思いますか。
　○急いでいて時間がなかったから。　○自分に関係ないと思ったから。
　○自分のことしか考えていないから。　○面倒くさいと思ったから。

以上から、生徒は困っている相手に対して、思いやりのある行動をすることの大切さを感じており、実際に全員の生徒が思いやりのある行動をした経験がある。しかし、自分のことしか考えなかったり面倒に思ってしまったりして､思いやりのある行動ができないこともあるという実態がある。

４　教材について

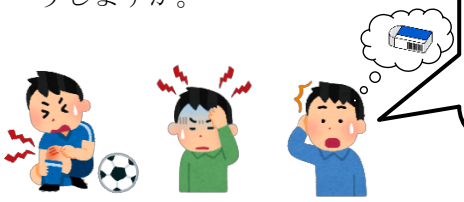
本教材は、合唱部の練習後、暗い夜道を１人で下校する主人公の少女を心配し、少女が通りすぎるまで店の明かりを消さないでいてくれるくだもの屋の温かな思いやりが感じられる教材である。主人公は、くだもの屋のおばさんが歌う合唱曲を通して、店の明かりが自分のためであったことに気付き、おばさんの無償の思いやりに対して驚きとともに心からの感謝の気持ちをいだく。くだもの屋と少女のほのぼのとした心の交流について考えることを通して、ねらいにせまることができる教材であると考えられる。

５　問題意識をもたせる導入の工夫

（１）思いやりについての関心を高めるために、友達が困っている場面絵を掲示する。
　＜場面絵・教科書の挿絵の活用＞
（２）ねらいとする道徳的価値に方向付けるために､思いやりのある行動をした経験を想起させる。
　＜生活・学習経験の想起＞
（３）「思いやりのある行動をすることは大切だと思っているが実際にはできないときもある」ことを考えさせることで、思いやりについて生徒に問題意識をもたせる。
　＜道徳的価値に対する揺さぶり＞

6　本時の展開

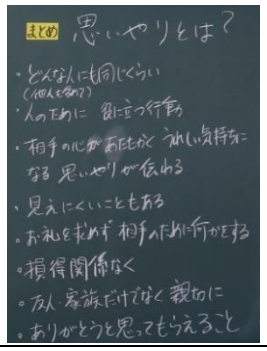
（1）展開

<table>
<tr><th>過程
（時間）</th><th>学習活動
○主な発問</th><th>指導上の留意点及び支援
○予想される生徒の反応　●実際の反応</th></tr>
<tr><td rowspan="5">導
入
(7)</td><td>1　本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。
○このような友達を見かけたらどうしますか。
  </td><td>・Ｔ１が全体を進行し、Ｔ２が板書をする。
・友達が困っている場面絵を掲示する。
●「大丈夫」と言う。　●絆創膏を貼ってあげる。
●消しゴムを貸してあげる。</td></tr>
<tr><td>○今までどのような思いやりのある行動をしたことがありますか。
 </td><td>・思いやりのある行動をした経験を想起させ、道徳的問題を自分のこととして捉えやすくする。</td></tr>
<tr><td>○思いやりのある行動ができなかったことはありますか。それはなぜですか。</td><td>●他の人がやってくれるかもしれないから。
●面倒くさいと感じてしまったから。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【めあて】「思いやり」とはどういうことだろうか。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">展
開
(33)</td><td>2　教科書の教材文の範読を聞く。</td><td>・めあてに「思いやり」と記入する。
・Ｔ１が教科書範読、Ｔ２が板書をする。</td></tr>
<tr><td>3　教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。
○くだもの屋のあかりを見たときの少女は、どのような気持ちだったと思いますか。</td><td>・場面絵を掲示し、少女の気持ちを想像させ、くだもの屋のあかりの温かさに気付かせる。
○明るくてよかった。
●安心して帰れるな。
●なんで、明かりがついているのかな。</td></tr>
</table>

工夫（1）＜場面絵・教科書の挿絵の活用＞
言葉だけで生徒に伝えたときよりも、関心をもって考えたり、発言をしたりする生徒の姿が多く見られた。

工夫（2）＜生活・学習経験の想起＞
「重い荷物を持ってあげた」「教科書を見せてあげた」など、思いやりのある行動をとったことがあることを、お互いに確認し合うことができた。

工夫（3）＜道徳的価値に対する揺さぶり＞
・「思いやりのある行動は大切だと思うか」と確認したところ、全員の生徒が「大切だと思う」に挙手をした。
・「思いやりのある行動ができなかったことがあるか」と確認したところ、全員の生徒が「できなかったことがある」に挙手をした。
・「思いやりは大切だと感じている」ことと、「思いやりのある行動ができないことがある」ということは、反する内容ではないかと生徒に投げかけたところ、どの生徒も悩んだり考え込んだりしていた。「思いやりって、どういうことなんだろうね」という問いかけに、全員の生徒が頷いていた。

	〈中心発問〉 ○店のおばさんが話してくれた営業延長の経緯を聞いた少女が「声もなかった」とき、どんなことを考えていたでしょうか。 ①個人で考えをまとめる。 ②全体で考えを交流し合う。	・Ｔ１が全体を進行し、Ｔ２が板書をする。 ・少女の気持ちや自分自身の経験をもとに、多くの考えや気持ちをイメージさせる。 ・全体で考えを交流し合うときは、意見を交流しやすくするために、机をコの字型にする。 ・生徒に意見を発表させ、「どの考えに近いか」「どんな点が違うか」などを問い返し、自他の考えの異同に関心を高めさせる。 ○「ありがとう」という感謝の気持ち。 ○迷惑をかけたという申し訳ない気持ち。 ●もっと、お礼をしないといけない。 ●どうして、私のために明かりをつけてくれたのだろうか。
	〈補助発問〉 ○みなさんが、くだもの屋夫婦の立場だったら、同じことができますか。それは、なぜですか。 	・補助発問を通して、生徒の本音を引き出し、くだもの屋夫婦の思いやりについて深く考えさせる。 ・くだもの屋の思いやりは、見ず知らずの少女に向けられた何の代償も求めていないものであることに気付かせる。 ○電気代がもったいないし、できないかもしれない。 ○歌を聴くことが楽しいので、できるかもしれないが難しい。 ●面倒くさいと思ってしまうから。 ●身近な人ならできるけど、知らない人だから・・・。
	4　道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについて考える。 ○思いやりとはどういうことだと思いますか。 ①個人で考えをまとめる。 ②全体で考えを交流し合う。 	・導入での思いやりやくだもの屋夫婦の思いやり、生活経験などをもとに考えさせる。 ・Ｔ１が全体を進行し、Ｔ２が板書をする。 ○相手の気持ちになって考えること。 ●人のために役に立つ行動をすること。 ●知らない人でも、人のためにつくすこと。 ●相手の心を温かくしたり、うれしい気持ちにしたりすること。 ●自分がしてほしいことを考えて行動すること。 ●自分が損だとしても、どんな人にも、相手に「ありがとう」の気持ちをもってもらうこと。
終末 （１０）	5　本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。 【「振り返りシート」の活用】 「今までの自分は」「これからの自分は」という言葉を意識して本日の道徳の授業を振り返りましょう。	・本時の学習を振り返り、よりよい自己の考え方や生き方への思いや願いを深めさせる。 ・数名の生徒に意見を発表させ、クラスで考えを共有する。

（２）授業を終えて

①問題意識をもたせる導入の工夫について

・思いやりが発揮できそうな場面について、言葉での説明に加えて場面絵で提示したことで、生徒の関心を高め、多くの発言を引き出すことができた。

・思いやりのある行動をした経験を想起させたことで、道徳的な問題を自分のこととして捉えた発言が見られた。

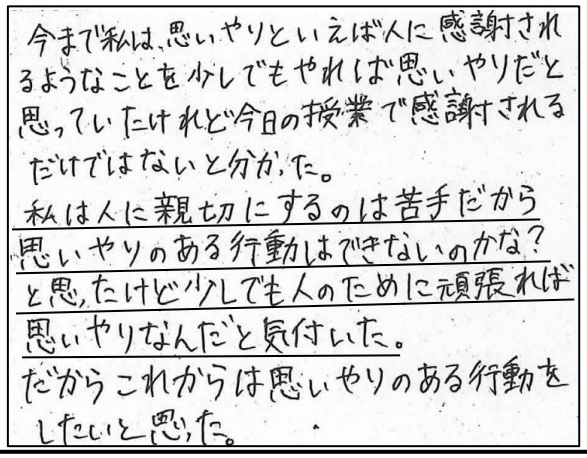
・生徒がこれまでに行った思いやりのある行動を確認した上で、「思いやりのある行動をすることは大切だと思っているが実際にはできないときもある」ということについて考えさせたことで、思いやりの難しさに気付かせ、思いやりについて自分のこととして考える必要感を高めることができた。

・思いやりのある行動ができなかった理由を板書しておくと、授業の終末で、最初の考えと比較することができ、生徒の思考をさらに深めることにつながったと考えられる。

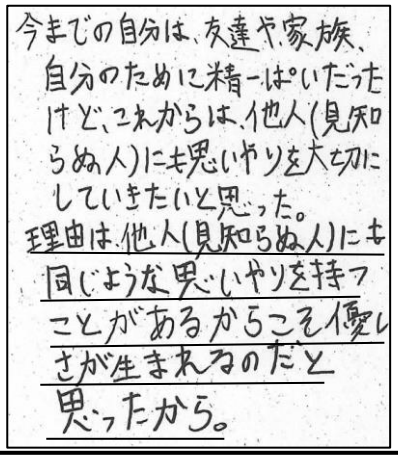
②「振り返りシート」の活用について

「今までの自分は」「これからの自分は」というキーワードを意識させて書かせたり、「なぜそう思ったのか」という理由を書かせたりしたことで、授業で考えた道徳的価値について自分のこととして捉えて振り返りをしたことが分かる、次のような生徒の記述が見られた。

・生徒 A

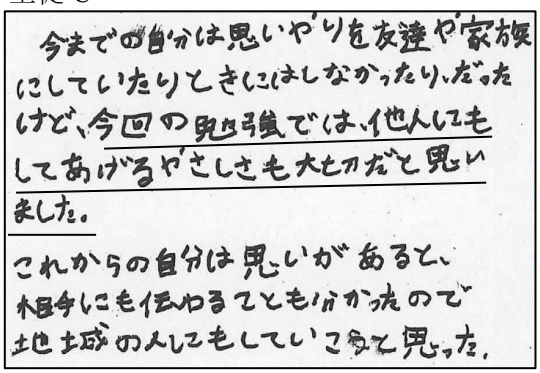

今まで私は、思いやりといえば人に感謝されるようなことを少しでもやれば思いやりだと思っていたけれど今日の授業で感謝されるだけではないと分かった。
私は人に親切にするのは苦手だから思いやりのある行動はできないのかな？と思ったけど少しでも人のために頑張れば思いやりなんだと気付いた。
だからこれからは思いやりのある行動をしたいと思った。

・生徒 B


今までの自分は、友達や家族、自分のために精一ぱいだったけど、これからは、他人(見知らぬ人)にも思いやりを大切にしていきたいと思った。
理由は、他人(見知らぬ人)にも同じような思いやりを持つことがあるからこそ優しさが生まれるのだと思ったから。

生徒 A は「人に親切にするのは苦手だから思いやりのある行動はできないのかなと思ったけど、少しでも人のためにがんばれば思いやりなんだ」、生徒 B は「他人（見知らぬ人）にも（友達や家族と）同じような思いやりをもつことがあるからこそ優しさが生まれるのだ」と、それぞれ自分との関わりで考えており、生徒自身の中で新たな気付きが生まれている。

・生徒 C


今までの自分は思いやりを友達や家族にしていたりときにはしなかったりだったけど、今回の発表では、他人にもしてあげるやさしさも大切だと思いました。
これからの自分は思いがあると、相手にも伝わることも分かったので地域の人にもしていこうと思った。

生徒 C は、自分の意見や考えを書いたり、発表したりすることに苦手意識をもっている生徒である。今までは思いやりのある行動を友達や家族には、（意識して）行ってきたが、授業を通して「他人にもしてあげる優しさ」の大切さに気付き、思いやりに対する考えを深めている。

③その他　本時の授業についての課題について

考え・議論する活動場面で、生徒が司会を行い、互いに考えの理由を問わせたり、考えを広げたりさせると、さらに生徒の自主的で活発な意見交流につながったと考えられる。

7　実践の成果と課題

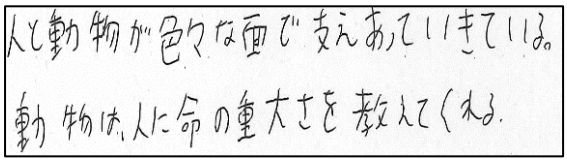
（1）成果

・生徒の実態把握を詳細に行ったことが、導入でどのような問題意識をどのようにもたせていくのかを考え、工夫の選択や準備、授業での取組を進めていく際に効果的であり、その重要性が分かった。
・「振り返りシート」をポートフォリオ形式で積み重ねていくことで、生徒が過去の授業で感じたことを振り返る姿が見られ、自己の変容の自覚や自己を見つめることの習慣化を促すことができた。
・「振り返りシート」に、「今までの自分」「これからの自分」を意識させながら書かせることで、生徒が振り返りを書きやすくなり、記述する内容に深い考えが見られ、文章量も増えた。また、記述も一般論や型通りだけの記述が減り、具体的な記述が多く見られるようになった。

価値項目：C－（１９）生命の尊さ

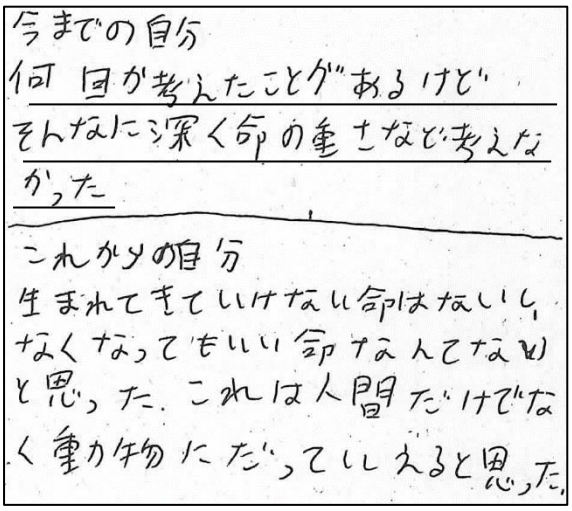
《実践前》

教材名：最後のパートナー



《実践後》

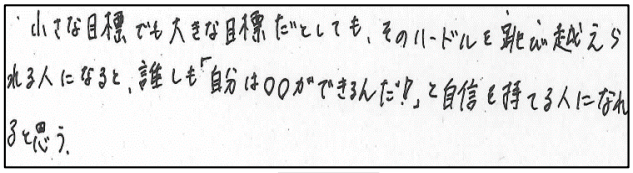
教材名：体験ナースをとおして



価値項目：A－（４）希望と勇気、克己と強い意思

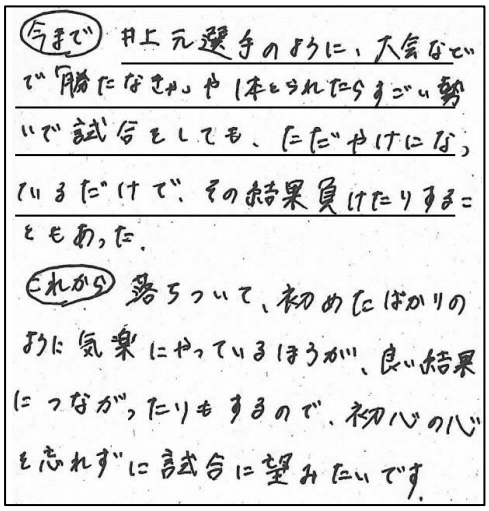
《実践前》

教材名：自分を諦めない　立ち上がった瞬間が自信になる



《実践後》

教材名：初心



どちらも同じ価値項目で比べた実践前後の生徒の記述である。実践前はどちらも文章量が少なく、やや抽象的な表現になっている。しかし、実践後の生徒の記述は、どちらも文章量が多くなり、内容も具体的になったり、自分の経験を振り返ったりした記述になっている。

（2）課題

・教科書を使用することで、授業者が生徒に問題意識をもたせやすい教材と、もたせにくい教材があった。授業のねらいや教材、生徒の実態を考慮した効果的な導入を考えていく必要がある。
・授業後の振り返りの内容や文章量には、同じ生徒でも扱う教材により差が見られた。生徒の自分のこととして捉えた振り返りを充実させるためには、「振り返りシート」の活用に加えて、導入で高まった問題意識を生かした展開、中心発問の吟味などにより、生徒が主体的に考え・議論する活動に取り組めるよう工夫していく必要がある。

実践例３（齋藤教諭：沼田市立薄根中学校　第２学年）

１　ねらい

かけがえのない命を与えられているということに気づいて感謝し、自他の生命を尊重しようとする実践意欲を培う。

２　資料名：「体験ナースを通して」　内容項目：D－（１９）生命の尊さ

３　生徒の実態

本学級は、男子１２名、女子１３名、計２５名である。

本学級では事前アンケートを行った。質問と結果は以下の通りである。

（1）あなたは命をどれくらい大切にしていますか。

大切にしている	（２２名）	少し大切にしている	（０名）
あまり大切にしていない	（０名）	大切にしていない	（０名）

（2）世間の人たちは命をどれくらい大切にしていますか。

大切にしている	（７名）	少し大切にしている	（６名）
あまり大切にしていない	（９名）	大切にしていない	（０名）

（1）の質問では、回答した生徒全員が「大切にしている」に回答した。しかしながら、２つ目の質問では、３つに回答が分かれた。これらの結果から、自分は命を大切にしているが世間の人は自分ほど大切にはできていないと考えている生徒が多いことが分かった。

生徒は明るく素直であり、楽しそうに学校生活を送っている。また、男女の仲がよく、日常の学校生活の中でも周囲への思いやりやそれに対する感謝の念が生まれてきている。しかしながら、時々生徒の口からは「死ぬ」「死にたい」といった言葉を耳にする。命そのものに対する考え方も安易であり、「死ぬ」ということがどういうことかよく分かっていない生徒もいる。「命は大切である」ということは理解しているが、なぜ命が大切なのかということについて考えることは、まだ充分にできてはいない。

４　教材について

本教材は、病院でのナース体験を通して命の尊さについて考えた生徒の体験談である。主人公が赤ちゃんや妊婦さんとかかわる中で、自分の出生や成長、母親へ感謝の気持ちを実感し、命と自他の関わりについて深く考えていく様子が記されており、本学級の生徒と年齢の近い主人公の等身大の感想や思考の流れに触れることができる。かけがえのない命を与えられたことに感謝する主人公の気持ちに共感しながら、生きることの喜び、命の尊さ、親の愛情について考えることができる教材である。

５　問題意識をもたせる導入の工夫

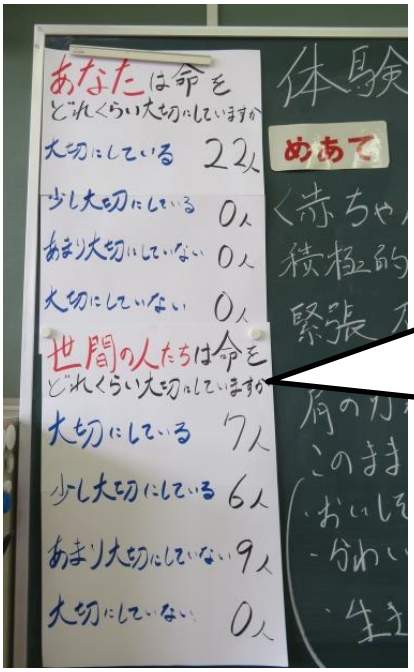
（1）アンケート結果を用いて、生徒の命に対する考え方を共有させる。
＜アンケート調査の活用＞

（2）自分の回答と他者の回答を比較させることで、命に対する考え方の違いに着目できるようにする。＜アンケート調査の活用＞

（3）自分と社会の意識の差に着目させる発問をすることで、命を大切にすることについて考える必要感を高める。＜アンケート調査の活用＞＜道徳的価値に対する揺さぶり＞

6　本時の展開

（1）展開

過程 （時間）	学習活動 ○主な発問	・指導上の留意点及び支援 ○予想される生徒の反応 ●実際の生徒の反応
導 入 （5）	1　本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 ・アンケート結果を提示する。  ○「２－１の生徒は命をどれくらい大切にしていますか。」と、家族や他者にアンケートを行ったら、同じ結果になるだろうか。 ○本当に自分たちは命を大切にしているのだろうか。	・事前に行ったアンケートの結果を提示し、生徒が現時点で命をどれほど大切にしているのかを具体的に捉えさせる。 ・命を大切にすることについて、自分の回答と他者の回答を比較させることで生徒の考えを揺さぶり、本時のめあてをつかませる。 ・他クラスのアンケート結果も提示して、結果が似ていることを伝える。 工夫（1）＜アンケート調査の活用＞ ・「予想通りだ」「全員が自分の命を大切にしている」などの発言があった。 ・２つのアンケート結果を比べる姿が見られた。 工夫（2）＜アンケート調査の活用＞ ・「隣のクラスもきっと同じような結果だろう」という予想する姿が見られた。 ・「私は命を大切にしているが、世の中の人が命を大切にしているかというとそうではない。」という気づきを共有することができた。 工夫（3）＜アンケート調査の活用＞ ＜道徳的価値に対する揺さぶり＞ ・「時々、死ねという言葉を使っていた。」「言われてみれば大切にしていないかも。」「いや大切にできていない。」という発言があった。
	【めあて】「命を大切にする」ためにはどのように考えていったらよいのだろう。	

展開 （３５）	２　教科書の教材文の範読を聞く。	・教師が教材文を範読する。 ・教材の内容を理解しやすくするために、話の内容を板書しながら範読する。
	３　教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。	・主人公に共感させるために、場面毎に「このとき主人公はどんなことを感じていたのだろう」と問いかけ、多くの考えや気持ちをイメージさせる。
	○「私」は赤ちゃんにミルクを与えながら、どんなことを感じたのだろう。 【インタビューの回答】 ・一生懸命生きようとしているエネルギーを感じた。	・数ヶ月前に出産を経験した方に、事前にインタビューを行い、その回答を生徒たちにも伝える。インタビュー内容は発問と同様である。 ○かわいい。 ○一生懸命生きようとしている。 ●ずっとこうしていたい。 ●あたたまる。
	○なぜ、初めての出産で心細いはずなのに、満面の笑みを浮かべることができたのだろう。 【インタビューの回答】 ・私は心細くはないし、不安もなかった。なぜなら、生むのは私だが、旦那さんも赤ちゃんも一緒だったから。	○自分の子どもに早く会いたいから。 ○生まれてくることが楽しみだから。 ●生まれるのがわくわくする。 ●心細さより、嬉しさの方が大きかったから。 ・インタビューの回答を伝えることで、「自分のお母さんもそのような気持ちだったのかもしれない」と、生徒に考えさせるきっかけにする。
	＜中心発問＞ ○「私」は、お母さんから出生の様子を聞いたとき、どんなことを考えたのだろう。 ＜補助発問＞ ○「私」にとって「命を大切にする」とは、どのように考えていくことなのだろう。	・個人の考えをワークシートに記入後、ホワイトボードを用いてグループで意見交流させる。 ○不安や恐怖を乗り越えて生んでくれてありがたい。 ○私は生まれる前からも、たくさんの人から愛されて支えられてきた。 ○自分の命は自分のものだけではなく、多くの人によって生かされてきたと自覚した。 ●生まれることが楽しみだった。 ●大切に思っている。 ●自分は多くの人に大切にしてもらっている。 ●ありがたい。
	４　道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについて考える。 ○「命を大切にする」ためにはどのように考えていったらよいの	・学習のめあてにもどり、改めて気付いたことや考えたことを確認させる。 ○支え育ててくれた人に感謝をし、次の命や他人の命を支え育てたい。 ●命は自分だけのものではない。

	だろう。	●命は多くの人との関わりによってある。 ●新しい命を育てる立場になることを考える。
終末 （１０）	５　本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。 【「振り返りシート」の活用】 「今までの自分は」「これからの自分は」という言葉を意識して本日の道徳の授業を振り返りましょう。	・振り返る必要性を感じられるように、本時の学習で、自分の考え方にどのような変化が起きたのかを問いかける。

（２）授業を終えて

①問題意識をもたせる導入の工夫について

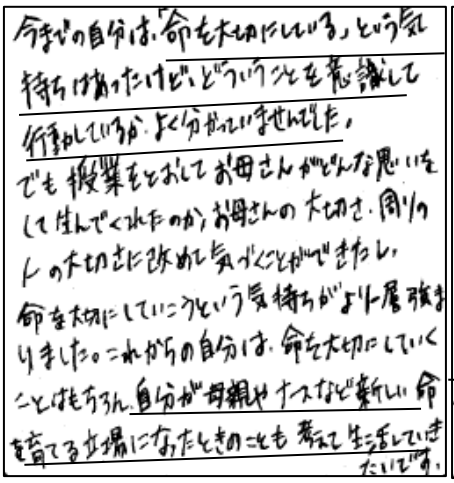
・自分と他人の２つのアンケート結果を用いることで、生徒の命に対する考え方を全体で共有させるとともに、自分の回答と他者の回答の比較によって命に対する考え方の違いに着目させることができた。

・生徒自身のアンケート結果を用いて、他人が自分たちの結果をどのように捉えるかを考えさせたことにより、今までの「命を大切にすること」についての価値観に疑問をもたせることができ、命を大切にすることについて考える必要感を高めた上でめあてを提示することができた。

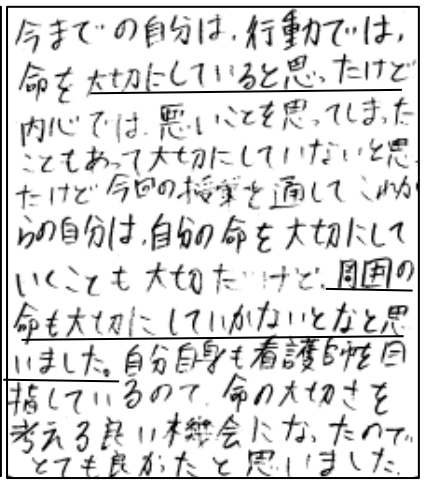
②「振り返りシート」の活用について

「今までの自分は」「これからの自分は」というキーワードを意識させて書かせたり、「なぜそう思ったのか」という理由を書かせたりしたことで、授業で考えた道徳的価値について自分のこととして捉えて振り返りをしたことが分かる、次のような生徒の記述が見られた。

・生徒 A



・生徒 B



授業内での変容を自己評価することで、「自分だけでなく他者の命を尊重すること」の大切さに気づくことができた。また、「これからの自分」を考えさせることで、将来の夢や、明日からの行動に結びつけようとする記述が見られた。

③その他　本時の授業についての課題について

活発な議論する活動にするために、主発問を行う際に、導入で高まった問題意識を再度確認する必要がある。

7　実践の成果と課題

（1）成果

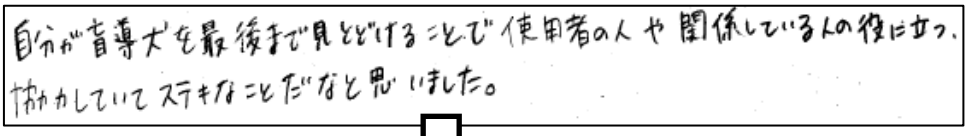
・導入時にアンケート結果を用いることで、ねらいとする道徳的価値に関するこれまでの生徒自身の考えや立ち位置を再確認させるとともに自分の考えと他人の考えの違いに着目させることができ、教材で扱う道徳的な問題に対して当事者意識をもって考えることにつながった。

・「振り返りシート」を用いて「今までの自分は」「これからの自分は」を考えさせることを積み重ねたことで、振り返りの時間において授業前までの自分の言動を見つめ直したり、授業内の学びや気付きを生活で生かそうとしたりする姿勢が見られるようになった。

価値項目：Ｃ－（１９）生命の尊さ

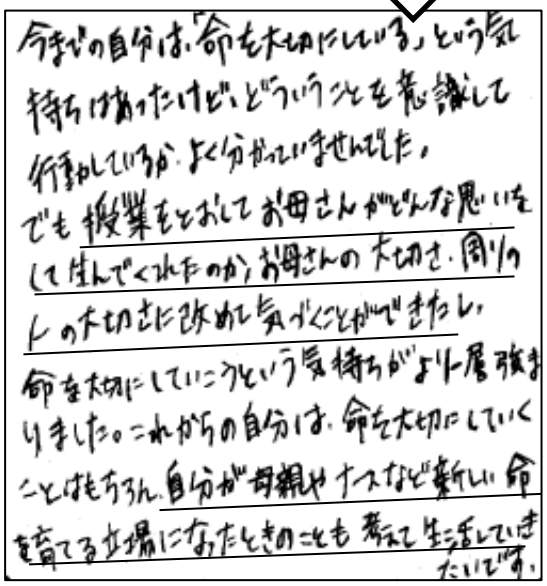
≪実践前≫

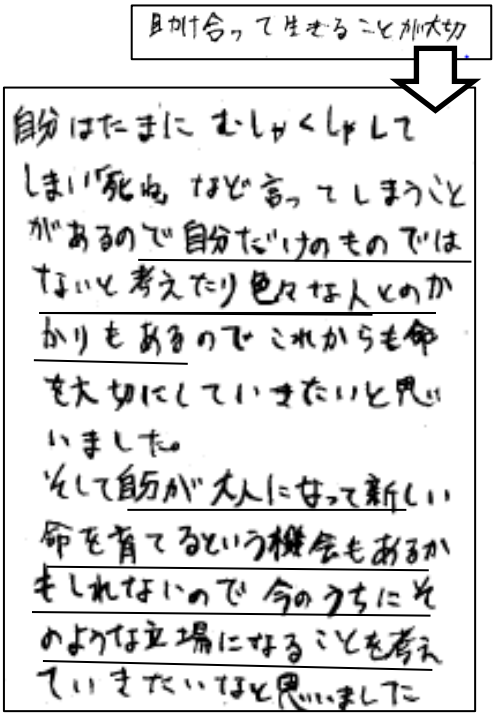
教材名：最後のパートナー



≪実践後≫

教材名：体験ナースをとおして





「振り返りシート」を用いない以前の記述と比べ、内容量が増えるとともに、１単位時間の授業内で自分の考え方にどのような変化が起きたのかを振り返ることができていることが分かる。また、将来の夢に結びつけたり、明日からの行動に結びつけたりしようとするような、自分のこととして捉えている記述が増えた。

（2）課題

・アンケートを行う際には、番号を選択させるだけでなく、選択した理由も記述させたい。

・導入によって高めた問題意識を生かした、話合いの必要性をもたせる工夫が必要である。

・話合いを充分に行えるように時間配分を考える必要がある。

・振り返りで、生徒の文章量が多くなってしまうことで、時間内に書き終わることができないことがあった。時間配分を考えたり、振り返りの視点を絞ったりするなどの工夫が必要である。